

—箴言8章・22-31、ローマ5章1-5、ヨハネ16章・12-15—

(そのとき、イエスは弟子たちに言われた。)  
「言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。その方はわたしに栄光を与える。わたしのものを受けて、あなたがたに告げるからである。父が持っておられるものはすべて、わたしのものである。だから、わたしは、『その方がわたしのものを受けて、あなたがたに告げる』と言ったのである。」—ヨハネ16章—



## 関係性の神秘

教会は「三位一体の神」を、神の救いの歴史から、「聖霊」によって理解してきました。

「父なる神」は、悪霊の支配下に拉致された人類を、この世から脱出させて救う道を、「御子」によって、十字架の死と復活の道で示し、使命を果たして天に戻られた御子に代えて「聖霊」を派遣して、教会を誕生させ、世の終わりまで私たちと共にいてくださる三位一体の神であることを、この一連の「救いの歴史」から、真理の霊である聖霊によって使徒たちに悟らせ、こうしてキリストの教えはユダヤ教から袂を分かつことになったのです。

聖霊降臨によって誕生した教会が、初めに祝う主日が、今日、三位一体の祭日であるのは、事の始めにはいつも「三

位一体の神」の存在とその働きがあることを信者に思い起こさせ、救いの歴史を感謝のうちに生きるためでしょう。

天地創造のとき、救いを告げる受胎告知のとき、教会誕生のとき、いつも事の始めには「三位一体の神」の働きがありました。私たちの生活にも、祈りの始めに、また食事の前にと、ことを始める前に「父と子と聖霊の御名」によって、「十字のしるし」をするのはそのためです。

人間の理解を超える「三位一体の神」は「神の命の神秘」を私たちに示しておられます。神は唯一ですが孤独ではありません。三位の人格が、関係性の中で充滿した「一つの命」だからです。この「三位一体の神のいのち」に似せて造られた私たちのいのちも、関係性を生きることによって、

満たされたいのちになるのです。家庭はその出発点です。家庭の中に、また、人との関わりの中に、いつも関係性を生きておられる三位一体の神の存在を忘れないようにしましょう。

生前、母は、私達8人兄弟のために、一升釜で炊けたご飯の蓋を取って最初にすることは、大きなお玉杓子でご飯の上に「十字架のしるし」をすることでした。子供たちはそれを見るのが好きでした。父と子と聖霊の神さまの祝福されたご飯をいただけるからです。

私は今も炊飯器で炊きあがったご飯の蓋を取って最初に「十字のしるし」をするのを忘れていません。ご聖体をいただく時のように、家庭で神さまからの祝福をいただくのしるしを。

2022年6月12日

主任司祭 昌川信雄